

旭川医大 病院ニュース

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>



編集 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
谷野 美智枝

大学・病院ホームページリニューアルについて



令和5年4月に、旭川医科大学病院のホームページを全面リニューアルいたしました。

今回のリニューアルでは、より使いやすいホームページを目指し、デザインやメニュー構成を見直しました。また、スマートフォンやタブレットでの表示に対応しましたので、デバイスを問わずにいつでも閲覧いただけます。リニューアルにあたり、「よくあるご質問」のページも新規作成しましたので、外来受診・入院に関するご質問がありましたら、ご覧ください。

令和5年7月には旭川医科大学のホームページも全面リニューアル予定です。こちらも、より見やすく、閲覧される方が求めている情報にすぐアクセスできるよう構成やデザインを見直し中です。

また、大学ホームページのリニューアルに先立ち、開学50周年記念サイトも公開しました。開学からこれまでの歩みや開学50周年記念事業についてご紹介しています。大学トップページのリンクからご覧いただけます。

今後、新規コンテンツの追加も予定しておりますので、お楽しみにお待ちしております。これからも、大学・病院両ホームページの内容の充実を図るとともに、最新の情報を発信して参りますので、よろしくお願いたします。

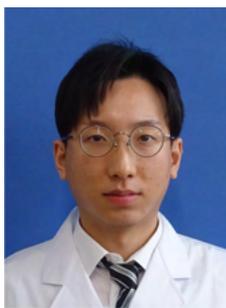


新人医師、新人看護師デビュー



コミュニケーションの大切さ

研修医 堂前 竣ノ介



初期臨床研修が始まり、私自身は日々の診療業務について学ぶことばかりの毎日を送っております。仕事を覚えることは医師の基礎として大切ではありますが、最近は医師同士やコメディカルの方と適切なコミュニケーションをとることの大切さを実感しております。日常業務にも

少しずつ慣れ、いつものことだから伝わっているだろうと過信してしまう部分がありました。その結果相手に情報が伝わらず業務全体の遅れにつながってしまうことに気づきました。それを防ぐためには常に相手のことを考え、言葉にして伝えることで円滑に医療を進めていくことができると感じ、過不足なくコミュニケーションを取れる人間として成長していきたいと考えています。

責任ある看護師の一員として

7階東ナースステーション看護師 藤門 あみん



4月から、新人看護師として7階東病棟で勤務しています。患者さんとの関わりや先輩の姿を見て、座学のみでは身につかない現場での看護実践について学びを深めています。日々、緊張しながらではありますが、自分のできる看護が増えていくことに喜びを感じます。

私は、患者さんの退院後の生活も視野に入れた看護を大切にしていきたいと考えています。そのためにも、日々のコミュニケーションを通して患者さんと向き合い、安心を提供できる存在となるよう努力していきます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



腫瘍センター長就任の挨拶

腫瘍センター長 田邊 裕貴

2023年4月から腫瘍センター長、5月からはがん遺伝子診療部長を拝命しております。旭川医科大学病院のがん診療部門を集約化し、がん治療を推進することを使命としております。医師になった当初に炎症から腫瘍のプロセスに興味があり、消化器内科を専攻しました。特に胃癌の臨床と研究に従事したことから、ヘリコバクターピロリの除菌治療に尽力しました。日本中でピロリ除菌が進み、近年では本邦の胃癌死亡が減少傾向にあります。進行胃癌では免疫チェックポイント阻害剤の開発により、がん免疫療法が脚光を浴びています。以前は極めて稀な完全寛解に至る患者さんを目の当たりにすると、がん化学療法の進歩を実感します。その様な医療の変遷を様々な職場で経験し、2018年からは旧第3内科の奥村教授の勧めで母校である旭川医大に勤務することになり、過去最長の5年間、一所懸命に働いております。腫瘍センターでは、がん予防からがん化学療法までの総合的な支

援を提供することで、患者さんの生活の向上と治療の効果を最大化することを目指しています。

最近話題となっているChatGPTに「旭川医科大学病院の腫瘍センターの役割」を尋ねると、「旭川医科大学病院の腫瘍センターは、がん（腫瘍）に特化した診断や治療、研究、支援を行う専門部署です。医師の腫瘍センターは、がん患者さんの総合的なケアを提供するため、多職種の専門医師や看護師、臨床検査技師、薬剤師、栄養士、心理士などの専門家が協力して働いています。」と回答してくれます。確かに他職種連携は重点課題で、個人的には、病理医、遺伝専門医・カウンセラーと共に臓器横断的なゲノム医療の推進に注力しています。当院では、がん化学療法や放射線治療、緩和医療の専門医の育成が喫緊の課題と考えております。がんの予防から治療まで、皆様のご指導のもと腫瘍センターを活性化していく所存しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



学科長として考える「これからの看護学科と大学病院との連携」

看護学科長・看護職キャリア支援センター長 升田 由美子

みなさまには日頃より看護学科の教育・研究にご協力いただき、感謝申し上げます。令和5年4月1日より看護学科長ならびに看護職キャリア支援センター長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

看護学科の卒業生が今年も大学病院で看護師としてのキャリアをスタートしました。この3年間、大学も病院もコロナ禍をいかに乗り越えるかに注力し、看護学科も看護部と連携し工夫を重ねながら学生実習を行ってきました。やむを得ず、オンライン実習になったこともありましたが、基本的には一度に実習する学生数を減らし、ベッドサイドに行く時間を制限するなどしながら学生実習を継続し、卒業そして新人看護師として歩み始めることができたのは幸いです。

令和5年度も感染対策を講じながらの実習開始となりました。看護学科実習運営委員会の塩川委員長、森副委員長

を中心に看護部の皆さまと検討を続け、よりよい学習環境を整えていきたいと考えています。ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

また、現在、大学院修士課程修了生の名簿作成を行っております。改めて修了生の氏名、所属を拝見しますと看護部をはじめとして、大学病院の医療職者が看護学科修士課程を修了されていることを実感いたしました。大学院での学びが病院での医療・看護の質向上に貢献していることと思います。本学修士課程は昼夜開講を行い、離職せずに学ぶことを可能にしています。長期履修制度の活用もできますので、興味のある方は看護学科の教員に気軽にご相談ください。

これからも看護学科と大学病院が連携を図り、互いの力を高めていくことが道北・道東地域の看護力向上につながると考えています。看護職キャリア支援センターとも連携し、これからの看護を創っていきましょう！



総合診療部長就任にあたって

総合診療部長 野津 司

令和5年4月1日より奥村利勝教授の後を継ぎ、総合診療部を担当することになりました。教育センター・地域医療教育学講座の野津司と申します。私は昭和63年に本学を卒業し、大学院に進み学位取得後、留学を含む7年間他大学（東大医科学研究所、北大総合診療部、UCLA 消化器病研究センター）で仕事をし、9年間は斜里町国保病院で地域医療に従事しました。平成22年から本学に復帰し、上記の所属で教育・研究を中心に仕事を続けて参りました。大学病院の総合診療部は、各科の潤滑油であると考えております。主訴から受診すべき診療科がはっきりしない場合に担当し、医療面接と身体診察から想定疾患を挙げ、各科の専門スキルを使って確定診断を可能な限り早期に得て、担当診療科へ引き継ぐというのが役割となります。このため皆様のご協力が、当診療部が稼動するのに必須となりますが、こちらも皆様のお役にたてるよう最大限努力する所存でございます。どうかよろしくお願い致します。



超音波画像診断センター長就任にあたって

超音波画像診断センター長 齊藤 江里香

職員の皆様には平素より超音波画像診断センターの運営にご協力いただきありがとうございます。この度前任の赤坂和美先生の退職に伴い、令和5年4月よりセンター長を拝命しました齊藤江里香と申します。旭川医大を卒業後、循環器内科医として心臓超音波検査を中心に研修、診療を行ってきました。当センターでは医師、臨床検査技師、放射線技師が協力して心血管エコー、腹部エコー、甲状腺エコー等幅広く検査を行っており、私も慣れないセンター長業務に右往左往しつつ、2名の主任をはじめ頼もしいスタッフに助けられながら日々精進しているところです。今後もセンター一丸となり診療に貢献すべく検査精度の向上、検査件数の増加を図って参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



感染制御部長就任にあたって

感染制御部長 岡田 基

令和5年度より感染制御部長を仰せつかりました、救命救急センターの岡田でございます。感染制御部の仕事は病院内の感染対策を担う組織です。院内の感染症発症のモニタリング、薬剤耐性菌の拡散防止、職員に対するワクチン接種、感染症対策の情報提供や教育などを担当しています。感染制御部は infection control team (ICT) と anti-microbial stewardship team (AST) の両面から院内の感染対策を担当するのみならず、地域の感染対策にも取り組んでいるところです。

近年は新型コロナウイルス感染対策が中心でしたが、5月8日より感染症法上の2類相当から5類感染症に移行しました。5類移行後、正確な罹患数は把握できませんが、定点観測の報告によると、患者発生数は少しずつ増加しているようです。幸い、重症肺炎を合併する患者さんは少ないですが、感染者数が増加すると重症患者数も増加することが予想されます。院内において確保病床数の削減および皆様方の就労制限は緩和していますが、発熱外来や新型コロナ患者の入院加療など、いましばらく従来の感染対策を継続する予定です。

これからも、感染症対策に尽力すべく感染制御部一同努力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



診療技術部長就任にあたって

診療技術部長 宗万 孝次

この度、4代目の診療技術部長を拝命しました宗万孝次と申します。診療技術部は、2008年2月医療技術職員を一元的に組織し、病院運営及び診療支援並びに患者サービスの向上に資することを目的として、産声をあげました。

部が発足した当初は、放射線部、臨床検査・輸血部、病理部、リハビリテーション部、臨床工学室の5部門4職種でのスタートでした。現在は、栄養管理部、特定技術部門（歯科、眼科、耳鼻科）を加えて7部門11職種の集まりとなっています。この間、職種間の連携としてエコーセンターでの診療放射線技師、臨床検査技師の両職種による対応など病院運営に職種横断にて対応してきました。皆様方と一緒に病院内に寄与するため職種横断にて知恵を出しながら診療技術部は前へ進んでいくつもりです。微力ではありますが、今後も少しずつ実績を積み上げていく所存ですので皆様方からのご指導賜りたくよろしくお願いいたします。



事務局長就任にあたって

事務局長 吉原 秀昭

本年4月1日付けで事務局長を拝命いたしました吉原と申します。私は神奈川県出身で、50年以上川崎、千葉で生活してまいりましたが、2年前東海機構名古屋大学に赴任したのが初めての関東以外での生活でした。冬の旭川の寒さに不安を抱きつつも、せっかく北海道で生活できることになったので、ドライブがてら週末には道内各地の温泉地などを巡り、四季折々の北海道の自然に触れてまいりたいと思っています。

これまで、国立大学での勤務は財務系の部署ばかりで病院勤務の経験はありませんが、病院の関係者の皆様方とも意見交換をさせていただき、大学と病院の一体感を持った運営に心がけてまいりたいと思います。

本学は現在、大変厳しい財政事情におかれておりますが、これまでの、文部科学省や他の国立大学での経験を活かして学長、執行部を支え、本学・病院の発展のために尽力させていただきますので、皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

医師事務作業補助者(ドクターアシスタント)について

医療支援課入院支援係(ドクターアシスタントWG担当)

医師事務作業補助の業務は、勤務医の過重労働が深刻化した2000年頃から、勤務医の負担軽減を図ることを目的に日本各地の病院で自主的な取り組みとして始まり、2008年に「医師事務作業補助者」という名称の職員が誕生しました。

当院ではドクターアシスタント(DAと略)の名称で、現在41名(病棟18名/外来23名)がチーム医療に欠かせない存在として一緒に働いています。

業務内容は、施設基準によって定められ、医師の指示の下に「診断書等の文書作成補助」「診療記録への代行入力」「医療の質の向上に資する事務作業(診療に関するデータ整理)」「院内がん登録等の統計・調査」「教育や研修・カンファレンスのための準備作業等」「入院時の案内等の病棟における患者対応業務及び行政上の業務」等の対応をDAが行い、ゆとりをもって医師が患者さんと向き合えるよう取り組んでいます。

外来や入院の場面で、診察室にDAが同席させていただくことがあると思いますのでご理解の程よろしくお願いいたします。

患者に喜ばれる病院食を目指して、調理師も頑張っています!

栄養管理部 山内 明美

病院食は開院当初から直営で行っています。病院や福祉施設などの給食部門の最近の動向は委託ですが、直営のメリットは食材の質の確保や患者の食事に対する声を反映させやすいこと、また患者個々に合わせたきめ細かい対応ができることにあります。そのメリットを最大限に生かし、患者に喜ばれる食事のため調理師は日々奮闘しています。調理師の「患者さんに美味しい食事を提供したい」という熱い思いは勿論ですが、知識・技術の向上なくしてはより良い病院食の維持・継続は困難と考えています。

この度、調理師 青木 豊が調理の知識・技術を向上し「調理師としての高みを目指す」を目的に創設された調理師技術技能評価試験に合格し、「給食用特殊料理専門調理師」の資格を得ることができました。これで先にこの資格を得ている渡辺 淳と合わせて2人が専門調理師として業務にあたっています。また全国規模で開催されている介護食レシピコンテストにおいて、青木 豊と北山拓路が調理師部門賞、調理師部門特別賞をそれぞれ受賞しました。受賞作品は cookpad (クックパッド) にも掲載されています。ご覧になる時は「マルハニチロ」で検索してみてください。

このように調理師も自身のスキルアップをはかり、患者により良い食事を提供できるよう頑張っています。調理師は普段は地下1階の厨房に居ることが多いため皆さんと顔を合わせることはほとんどありませんが、日々精進していることをわかって頂けると嬉しいです。

＜調理師部門賞＞

牛肉のステーキ風
～鶏肉のムースのせ～



＜調理師部門特別賞＞

うなぎの柳川風



World Wheelchair Curling Championships 2023に帯同して



リハビリテーション部 理学療法士 佐藤 弘也



私は本学スポーツ医科学研究委員会の活動の一環として、さまざまなスポーツにトレーナーとして関わるなどの活動を行っています。車いすカーリング競技においては、世界選手権予選突破を果たせず、目標に掲げていた2022年北京パラリンピックへの出場は叶いませんでしたが、気持ちを新たに臨んだ2022年11月の予選は、世界選手権出場条件の3位以内まであと一步の4位でした。本シーズンも終了…と思っていたところ、3位のチームが世界選手権への出場を辞退。繰り上げて日本チームが出場の切符を手に入れました。これは15年振りの快挙でした。その後、もう一度チームでスイッチを入れ直し、世界選手権に向けて準備に入りました。開催国は最もカーリング人口の多い国カナダ、開催都市はリッチモンドで、2023年3月1日から12日間開催されました。相手は過去大会でメダルを獲得したこともある強豪チームばかり。日本チームの成績は

2勝9敗という残念な結果となってしまいま

したが、かつてない価値ある経験をすることができました。今年も世界選手権出場をかけた予選からやり直し。2026年のイタリアで開催されるパラリンピック出場を目指して日々練習に励んでいます。パラリンピック競技は最近では目や耳にすることも増えてきていますが、まだまだ認知されていない部分もあると思います。これを機に車いすカーリングや本学スポーツ医科学研究委員会の活動を知って頂き、応援して頂ければ幸いです。本学の一員として、もっと大きな舞台で日本代表選手の活躍を支えられるように、私自身もレベルアップしてサポートを続けていきたいと思っています。



4年ぶりの開催！第49回旭川医科大学大学祭

医大祭実行委員会委員長 川本 蓮也



2023年6月10、11日の2日間で4年ぶりの開催となる医大祭を行いました。

両日通して行われる医学展、学生団体による模擬店、食堂コンサートに加えて、1日目はフリーマーケット、落語家の立川談吉さん、経済学者の門倉貴史さんをそれぞれ講師としてお迎えした講演会、夜には花火の打ち上げも行いました。2日目は青空市、例年はなかった体育館でのバンド、ダンスなど様々なジャンルのステージ、本学の教授である山根由起子先生による公開講座が行われました。一般の方も含め、2日間で非常にたくさんの来場者が訪れてくれました。

普段は学生や職員しかいない校内を小さい子から年配の方々まで色々な来場者が楽しそうに歩き回っている様子は実行委員長としてここまで頑張ってきたと思わせてくれるような光景でした。

コロナ禍ということもあり、4年生以下は初めての医大祭だったので知らないことだらけでしたが、みんなが意欲的に準備など活動してくれたおかげで無事に終わることができました。準備や運営に関わってくださった学生、学校職員の皆様に心より感謝申し上げます。

大成功を取めたといっても過言ではない今年の医大祭でしたが、これをきっかけに来年度以降もっと色々な人が楽しめる医大祭が続いていけばと思います。



皆様からのご寄附により 記載台・待合イスを設置しました

旭川医科大学基金では、皆様からのご寄附により新しく記載台と待合イスを設置いたしました。記載台は受付カウンター1番窓口前、待合イスは料金計算窓口前と各科外来に設置しています。

これからも、地域に根ざした医療、福祉の向上のため、積極的に活動を展開して参ります。末永くご支援賜りますようお願い申し上げます。旭川医科大学基金については、病院ホームページからも詳細をご確認いただけます。



旭川工業高校からベンチ寄贈

昨年12月に旭川工業高校から、ベンチを寄贈いただきました。課題研究の授業の一環として「地域に貢献するものづくり」をテーマに電子機械科の学生さん達が制作してくれたものです。冬の間は屋内にしまっていますが、春～秋の間は緑が丘テラス前に設置しています。このベンチ、真ん中の台にちょこっと飲み物や小物を置いて、使い勝手がいいのです。ひと休みしたいとき、バスを待つ間、お薬を待つ間など、ぜひご利用ください。



薬剤部

新薬紹介(84)

エンシトレルビルフマル酸錠(ゾコーバ[®]錠)

薬品情報室 八倉巻 真衣

エンシトレルビル フマル酸(商品名:ゾコーバ[®]錠、以下本剤)は、昨年11月に本邦で緊急承認された、SARS-CoV-2に対するプロテアーゼ阻害剤である。規格は125mg錠のみで、当院では本年6月より院外専用採用予定である。

効能・効果は、SARS-CoV-2による感染症である。投与対象は最新のガイドラインを参考にすることとされており、重症度の高い(概ね中等度Ⅱ以上)患者に対する有効性は確立していない。用法・用量は、通常、12歳以上の小児及び成人にはエンシトレルビルとして1日目は375mgを、2日目から5日目は125mgを1日1回経口投与する。本剤の有効性は、症状発現から3日目までに投与開始された患者において示されているため、症状発現後72時間以内に投与を開始することが推奨されている。

哺乳類で催奇形性が認められたため、妊婦または妊娠している可能性のある女性には投与禁忌である。妊娠可能な女性に処方する際には、本剤投与中及び最終投与後2

週間において避妊する必要性及び適切な避妊法について指導しなければならない。本剤はCYP3Aの基質であり、また、強いCYP阻害作用及びP糖たん白質等に対する阻害作用を有するため、投与中の全ての薬剤を確認することが求められる。添付文書では30を超える成分が併用禁忌に指定されている。

本剤は、承認時において有効性及び安全性に係る情報は限られており、引き続き情報を収集中である。使用に当たっては、あらかじめ患者又は代諾者に、有効性及び安全性に関する情報を十分に説明し、文書による同意を得る必要がある。

一般流通が開始され、入手は容易になったが、本剤が主に対象となる重症化リスク因子のない軽症例では、経過観察のみで自然に軽快することも多い。期待できる有効性とリスクの両方をふまえた上で対象患者を選択されたい。

臨床検査
輸血部発

「検査してください!」→「お待たせしました、結果です!」

臨床検査・輸血部 野澤 佳祐

Turn Around Time (ターンアラウンドタイム:TAT)という言葉をご存知でしょうか。おそらく、医療従事者でこの言葉を知っているのは臨床検査に携わる人に限られるかと思います。もとはIT用語であり、システムに要求を送って、その結果出力が終わるまでの時間をいいます。例えるなら自動販売機で欲しい飲み物のボタンを押してから、飲み物が出てくるまでの時間でしょうか。

このTATは臨床検査界限でも利用されており、血液検査を例にすると、患者様の検体を検査室が受け取り、検査結果が臨床医へ報告されるまでの時間をTATと呼んでいます。TATはさらに3段階に分けられます。

- ① 検査室に検体が届いてから、前処理等をして検査を開始するまでの時間
- ② 検査を実施している時間
- ③ 出た結果の品質をチェックして臨床医へ報告するまでの時間

まず①についてですが、届いた検体を臨床検査技師が

目視で性状を確認することから始めます。一部の血液検体は遠心分離等をして必要な部分を取り出します。血算や血糖・HbA1cなどでは特別な前処理は必要ありませんが、生化学検査などは検査開始まで約15分かかります。②に関しては、血算や血糖などでは数分、生化学では多くが15～30分、長いものでは2時間近くかかります。③では、チェックするプログラムを設定したシステムと臨床検査技師の目の両方で報告しています。検査件数の数にもよりますが、数分かかって報告しています。総合して30～60分かかりますが、検査の種類、混み具合、特別な処理を要する検体などでそれ以上かかる場合があります。

検査室では工場のように様々な過程を経て品質チェックをしながら結果を提出しています。各検査室ではTATの短縮に努めておりますが、場合によっては時間を超過することがあります。不明なことがございましたら各検査室までご相談いただければ幸いです。

「いのちをまもるプロとして。」看護の日・看護週間

看護部総務委員会

毎年5月12日はフローレンス・ナイチンゲールの誕生日であり、日本では「看護の日」(5月7日～5月13日は看護週間)として記念日のひとつになっています。

当院では2020年からコロナの影響でイベントの中止を余儀なくされましたが、入院患者さんへの「メッセージカード」の配布と「心に残る看護エピソード集」の作成を続けていました。しかし、今年は5月8日からコロナが5類感染症に移行したことから、病院玄関ホールにおいて「写真で伝えよう看護の心～看護の日写真展」を開催しました。

写真展では、患者さんと看護師の日常の関わりの場面や、地域の救急医療を担う看護師の緊張が解けた時のほっとした表情の写真、手術の準備に真剣に取り組む看護師の写真などを展示し、看護師の仕事を多くの方に発信することができました。

さて、日本看護協会による今年の看護の日のテーマは「いのちをまもるプロとして。」です。このテーマの意味するところは、私たちが24時間最前線で患者さんの命を守るプロフェッショナルであることを皆様に広く伝えると同時に、私たち看護師自身がプロフェッショナルとして命の最前線にいることを自覚することでもあります。

命を守るためには、患者さんが健やかに日々を送ることができるように生活を整えること、患者さんお一人お一人の気持ちや暮らしに寄り添ったケアも重要な要素となります。

私たちは日々、様々な業務に追われ、患者さんからも「看護師さんは忙しい仕事だね」と言われます。しかし、この看護の日には、一度立ち止まり、命を守るプロフェッショナルであることを改めて自覚し、患者さんやご家族の笑顔のために尽力する決意を新たにしたいと思います。



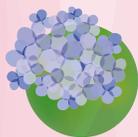
2022年度 患者数等統計

(経営企画課)

区分	外来患者延数	一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	初診患者数	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数(一般病床)
	人	人	%	人	%	人	人	%	%	日
1月	28,321	1,490.6	97.6	975	98.5	13,206	426.0	70.8	75.8	10.8
2月	27,184	1,430.7	97.7	915	98.7	13,444	480.1	79.8	76.9	10.6
3月	33,613	1,527.9	97.7	1,131	97.3	15,009	484.2	80.4	78.9	10.5
計	89,118	1,485.3	97.7	3,021	98.1	41,659	462.9	76.9	77.2	10.6
累計	368,650	1,517.1	97.5	13,509	93.6	167,147	457.9	76.1	77.4	10.6

時事ニュース

- ◆ 入学式 4月6日(木)
- ◆ 道知事・道議会議員選挙
不在者投票 4月6日(木)
- ◆ 市町村長・市町村議会議員選挙
不在者投票 4月20日(木)
- ◆ 看護の日 5月12日(金)
- ◆ 看護週間 5月8日(月)～5月12日(金)



広報誌編集委員会 名簿

区分	氏名	所属	職名
委員長	谷野 美智枝	病理部、病理診断科	教授
委員	市川 英俊	産婦人科学講座	助教
委員	水上 裕輔	内科学講座(病態代謝・消化器・血液腫瘍制御内科学分野) (がんゲノム医学部門)	教授
委員	竹川 政範	歯科口腔外科学講座	教授
委員	野澤 佳祐	臨床検査・輸血部	主任臨床検査技師
委員	吉田 光一	薬剤部	薬剤師
委員	佐藤 こずえ	看護部	副看護部長
委員	渡邊 啓子	総務課	課長補佐
委員	市川 さら	経営企画課	係長